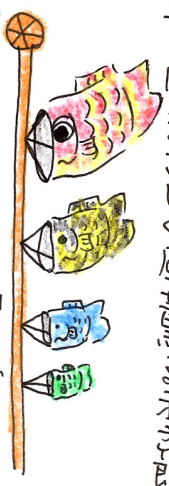


大坂市役所、市役所（市役所）

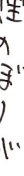
新緑の間を吹いてくる初夏の風を「薫風」と言います。五月は、まさしく風薫る季、節であり、浄泉寺にも青葉若葉の息吹が流れています。

鯉のぼり



こどもの日が近づくと、氣持ち良さをうに大空を泳ぐ鯉のぼりを目にします。鯉のぼりが立てらゆるようになったのは江戸時代とのこと。その由来は、「竜門と呼ばゆる急流を登ることができた鯉は龍になる」という伝説が語らうた古代中国の『登立竜門（とうりゅうもん）』という故事にあります。このことが転じ、鯉は立身出世の象徴となりました。

普段、なにげなく見ていた鯉のぼりには、子ども達の健やかな発育を祈る想いと共に、生きる上では避けられない苦難の壁にも、竜門を乗り越えて龍へと成長した鯉のように逞しく生き抜いて欲しいとの願いが込められています。



こどもへ



五月五日は、「こどもの日」です。この日は、私が生まれた日でもあります。子どもの頃は、浄泉寺にも大きな鯉のぼりが立てられており、今思い返しますと、そこには私に対する祖父母・両親の大きな願いが込められていた事実にかえります。まだまだ龍となる道のりは遠く長いようですが、ここまですぐやかに成長することができたのは、何よりも両親の温かい育みのおかげだと感じています。

父母の恩



仏教では、恩を知り、恩に報いていく「^{ちあんほうあん}知恩報恩」の実践が繰り返し説かれています。数多くの恵みの中でも、日々の生活体験において最も身近に感じらるゝのが父母の恩だと私は思っています。自分を生み育ててくれた両親の恩。その恩を細かく述べてゆけば、尽きることはないでしょう。それ程多くの恩を受けながらも、あまりに身近であるが故に、つい氣付くのが遅くなってしまふのも父母への感謝の想いです。

しかし、父母の恩に「氣付き、心から「ありがたい」と感じた私は、自然とその恩に報いてゆきたいと願うようになりました。「両親に喜んでもらえる生き方したい」。これは、今でも変わらぬ常に心に抱いている願いであり、とてもシンプルな想いですが、この想いが多くの場面で私を支え導いてくれています。

また、法華經というお経には、「法華經に説かゆる修行や供養をしている者は、生きとし生けるものを救はんがために自ら願つてこの世界に生まれよめた者たちであり、その者たちは皆仏の使いである」と説かれています。私は、仏弟子、さらには仏の使いとしての自覚を確かなものとした生き方が、仏と共に生きる道だと思ふようになりました。三十歳という節目の歳を迎える今、多くの出逢いや教えを通して、仏の使いとしての使命感が、より強固なものへと成長してきていると実感しています。

私にとこ誕生日は、両親への感謝を通じて、改めて自身の生き方を振り返る日となっています。両親と共にご先祖さまや私を支えてくださるたくさんのおかげに、じかに感謝をし、私から「ありがとう」と伝える日にしようと思っております。さうする中で、やる氣に満ちた一歩を踏み出す力が生まれてくると、私は確信できました。